

私は平成 16 年から平成 27 年までの 12 年間にわたり本誌の編集委員を務めさせていただきました。担当いたしました第 9 巻から第 20 巻を振り返ってみますと、第 9 巻から第 14 巻までは「特集」が組まれていました。1 年間に出版する 6 号のうち、最多は 5 回に「特集」が企画されましたが、第 14 巻の 1 回を最後に「特集」は誌面からなくなりました。「原著」、「症例報告」、「手術手技」、「私の工夫」、これら 4 種類の論文の合計本数を計算すると、第 13 巻までは 41 本から 58 本でありましたが、第 14 巻以後では 66 本から 89 本と増加しました。採用論文数からみましても「特集」以外の論文数の増加は、本誌への投稿論文数の増加すなわち会員からの認知度の上昇を意味して喜ばしい現象ですが、編集委員の編集作業量が膨張して嬉しい悲鳴をあげることもありました。

投稿された論文はどれも興味深い内容で拝読するのが楽しみでした。論文を書き慣れた先生、またはしっかりと上級医に指導されたと思われる先生が執筆した原稿はすらすらと読むことができて査読者としては楽でした。一方、投稿規定から逸脱した原稿、新知見が乏しい原稿、研究方法や解釈が正しくない原稿などは査読者泣かせでした。忙しい臨床の合間に論文執筆をした執筆者の努力になるべく報いたいという思いと、科学的であるべき大原則を維持すべしという考えの狭間で心を落ち着かせながら評価をしてきました。

採用論文の 70% が「症例報告」でした。英文雑誌がインパクトファクター向上のために「症例報告」の採用を厳しくしている最近では、日本語とはいえ「症例から学ぶ」貴重な機会である「症例報告」を執筆することは重要だと思います。特に若い外科系医師にとって本誌は絶好の発表媒体です。さらに上級医にとりましては「手術手技」や「私の工夫」があります。内視鏡外科に精通してくると、様々な問題点に気がつきそれを解決する希望が生じて論文にまとめることができます。どの論文も興味をそそられる内容であり、執筆者のアイデアが存分に表現されていました。

これまでの 12 年間、編集委員として業務を楽しませていただきました。平成 28 年からは読者の一人として、また投稿者の一人として本誌の発展を応援したいと思います。最後に、お世話になりました読者の皆様、編集委員の皆様、出版社の皆様に感謝申し上げます。

(小澤壯治)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 20 巻 第 6 号) 2015 年 11 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価：本体 2,800 円＋税 ＊会員には毎号送付されます。

2015 年 年間購読料：冊子版 16,380 円＋税、電子版/個人 16,380 円＋税、電子版/共有 18,840 円＋税、冊子＋電子版/個人 19,380 円＋税、冊子＋電子版/共有 21,840 円＋税（配送料：医学書院負担）＊会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：北野正剛）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当：野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2015, Printed in Japan

発 売：(株)医学書院（代表：金原 優）(本誌担当：水野、安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

胸部外科における Reduced Port Surgery の検討宮内善広・他 山梨大学第二外科
大腸癌に対する Trans-anal specimen extraction (TASE) による

腹腔鏡下手術：ENDO-PSI (II) を用いた体腔内吻合須藤雄仁・他 前橋赤十字病院外科

●症例報告

腹腔鏡下に診断・治療した外側型盲腸周囲ヘルニアの 1 例高橋智昭・他 藤沢市民病院外科
完全胸腔鏡下に切除しえた

縦隔内胸管嚢胞の 1 例林 雅太郎・他 山口大学大学院医学系研究科器官病態外科学呼吸器外科
ヘルニア中心小切開メッシュ吊り上げ法を用いた腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア

修復術岡田憲幸・他 三菱京都病院外科
メシル酸イマチニブ投与後に会陰操作を先行した腹腔鏡 ISR にて

切除した直腸 GIST の 1 例有元淳記・他 名古屋大学大学院腫瘍外科学

●手術手技

GeIPOINT mini™ を用いた単孔式内視鏡下乳房温存術齋藤慶太・他 市立室蘭総合病院外科

●私の工夫

乳児後天性結腸狭窄に対して経肛門的に Endo Peanut™

を用いた Reduced Port Surgery への工夫深堀 優・他 久留米大学医学部外科学講座小児外科部門
腹腔鏡下幽門側胃切除後の体腔内吻合におけるステイプラー使用数節減のための

工夫中村太郎・他 市立宇和島病院外科

他数編の掲載を予定。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。